



カケハシ・プロジェクト（派遣プログラム）の記録

対象：カケハシ・イノウエ 派遣 第3陣

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国へ日本の大学生および引率者計 25 名が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進や日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2020 年 3 月 1 日～3 月 8 日の日程でプログラムを実施しました。

一行は視察を通して米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験について SNS を通じて積極的に対外発信を行いました。

【参加団体・人数】

立教大学：23 名（大学生）・2 名（引率者）

【訪問地】

ワシントン DC, バージニア州

2. 日程

3/1(日)	【到着】 【オリエンテーション】
3/2(月)	【視察】ワシントン記念塔，第二次世界大戦記念碑，リンカーン記念堂，マーティン・ルーサー・キング牧師記念碑 【講義】双日米国会社ワシントン支店 ニコール・ウエハラ氏「日米ビジネス事情について」 【視察】全米日系米国人記念碑 【講話】ジェラルド・ヤマダ氏「強制収容を含む日系人の歴史について」
3/3(火)	【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館 【学校交流】アメリカン大学
3/4(水)	【視察】国立アメリカ歴史博物館 【視察】アメリカ合衆国議会議事堂
3/5(木)	【意見交換】モーリーン＆マイク・マンスフィールド財団 【意見交換】米日カウンスル
3/6(金)	ワシントン DC からバージニア州に移動 【意見交換】ランドルフ・メーコン・カレッジ ローレン・ベル教授 【視察】ハリウッド墓地，トレデガー製鉄所，テイラー・ポッターフィールド橋
3/7(土)	【出発】

3/8(日)

【帰国】

3. プログラム記録写真



3/2【講義】双日米国会社ワシントン支店
ニコール・ウエハラ氏「日米ビジネス事情
について」



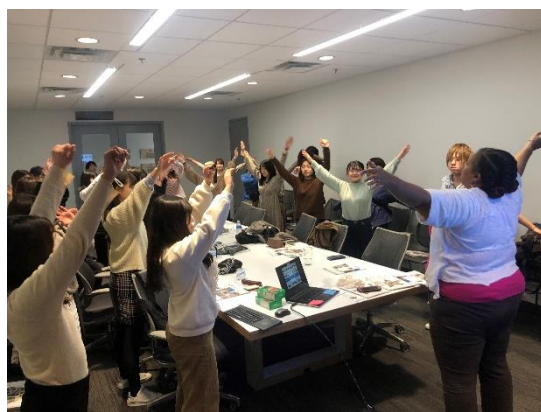
3/2【講話】ジェラルド・ヤマダ氏「強制
収容を含む日系人の歴史について」



3/3【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国
大使館



3/5【意見交換】モーリン&マイク・マ
ンスフィールド財団



3/5【意見交換】米日カウンシル



3/6【視察】ハリウッド墓地，トレデガ
ー製鉄所，テイラー・ポッターフィール
ド橋

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 広大なナショナルモールを訪問し、そこでアメリカの歴史を垣間みました。印象に残っているのは、ワシントンモニュメントを囲むアメリカの国旗の数です。多くのアメリカ国旗がたててありました。これはワシントンモニュメントに限らず、バス移動の時も、玄関や店舗の前にアメリカの国旗を多く見つけました。日本では家や店舗の前に国旗を飾っていることはほとんどないので、アメリカ国民の愛国心の強さを感じました。5ドルの紙幣にはリンカーン大統領と記念堂が描かれています。資料などで見たものを実際に見学でき、とても貴重な機会となりました。最終日には、ランドルフ・メーコン・カレッジのローレン・ベル教授が講義に来てくださいました。日米の政治制度の違いについてスライドを使って説明していただき、日米の政治制度についての理解を深めることができました。また、特に印象的だったのは、同大の学生からもらったメッセージカードです。私は外国の方からメッセージカードをもらったのが初めてだったので、宝物になりました。それを機に、メールのやり取りを始めることができました。自分の言葉で意思疎通出来ることが嬉しくて、今まで英語を勉強してきた良かったと思います。教授の講義のあとは、チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教のお墓へ行きました。立教大学を創設者です。ウィリアムズ主教が来日した当時は、明治維新も間もない頃で、欧米人への風当たりもまだまだ強かった時代でしたが、ウィリアムズ主教は、日本の英語教育、そして聖書教育のために尽力してくださったといえます。その証拠に、ウィリアムズ主教のお墓の前に、ウィリアムズ主教の功績を日本語で刻んだ碑が建っていました。日本から遠く離れたアメリカの地で、日本とアメリカの繋がりを垣間見られたこともとても印象的でした。このような経験をさせてくださったカケハシ・プロジェクト関係者の方々には感謝の言葉しかありません。

◆ 在米日本国大使館では、どのような思いで大使館に勤めているのか知ることができ、自分の将来の仕事について考える上で大変、有意義な時間となりました。お話の中で特に重要だと感じた点は、仕事を決める際に「仕事を通じてどのような人間になりたいかを考えることが大切だ」ということです。大使館の職員の方のように自分の意見や意思を持った女性になりたいと率直に思いました。ランドルフ・メーコン・カレッジのローレン・ベル先生の講義では、日本とアメリカの政治の違いについて非常にわかりやすく説明してくださり、政治を専攻していなくても政治に興味を持つことができました。アメリカン大学の訪問では、アメリカでの大学や大学院の入学システムについての説明を担当者から伺い、同大の学生と交流もできました。モーリー・マン・マンスフィールド財団の訪問で最も印象的だったことは、日本の大学での指導経験と指導の仕方に関する話でした。私は、教員になることを視野に入れているので、「良い先生はディベートをたくさんさせる。先生が全て答えを持っているわけではなく、生徒同士で学ぶ」という発言が印象的でした。普段から理想の教師のあり方について考えることが多くありますが、生徒の考える力を養いたいという思いはさらに強くなりました。同時に、アメリカの学校教育の現場を視察したいという気持ちが強くなりました。アメリカの中でも州によって雰囲気や特徴が違ふと思いますので、いろいろな州へ行ってみようと思いました。

◆ 私は今回の訪問でたくさんの新たな発見をすることができました。例えば、アメリ

カ人の国民性です。私は、日本人の強みは人をおもてなしする心であると思っていましたが、アメリカ人も日本とは違う形ではありますが、その精神を持っていることに気づきました。なぜなら、アメリカでは、見知らぬ人から笑顔で挨拶をされたり、「どこから来たのか」等を尋ねられたりしたからです。日本ではない経験だったため、初めは少し驚きましたが、外国から来た自分のことを歓迎してもらえたような気がして、とても嬉しい気持ちになりました。これはアメリカ人流のおもてなしの仕方であると思いました。自分が住み慣れていない土地で緊張している時に、現地の人に優しく対応してもらえると心が安らぐことがわかりました。日本がよりおもてなしする心を広めるためには、サービスの質だけでなく、このような何気ない日常でのコミュニケーションの向上が必要だと思います。私はこれから積極的に留学生と交流をし、彼らが早く日本の生活に慣れることを手助けしていきたいと思うようになりました。また、今回は残念なことにランドルフ・メーコン・カレッジの学生と会うことができませんでしたが、いつか彼らが日本に来たら、私は彼らが思う存分に日本滞在を楽しむことができるように全力でサポートしたいと思っています。それまでに、私は日本について勉強をし、アメリカの学生に十分な説明ができるように準備しておきたいです。彼らには今回会うことが出来なかったのですが、私たち一人ひとりに向けて書かれたメッセージを贈って下さり、大変感動しました。メッセージには、彼らも感染症拡大防止の観点から私たちと交流が出来なくなったことを残念に思っており、いつか会えることを心待ちにしているという内容がつづられていたからです。このメッセージを通して、私は言葉で伝えることの大切さを改めて感じることができました。普段、SNSで済ませてしまうことが多く、久々に直筆の手紙をもらって新鮮な気持ちになりました。日常において言葉を掛けることや手紙を書くことで相手に想いが伝わりやすくなることに気づきました。今回カケハシ・プロジェクトに関わることは、改めて日本の素晴らしさを再確認できただけでなく、自分の将来について考える機会にもなりました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校交流参加学生

ランドルフ・メーコン・カレッジのローレン・ベル教授の案内で、リッチモンド市内の河岸にそって立教大学の学生と一緒に散歩し、立教大学の創設者のウィリアムズ主教の墓等を視察しました。沢山写真を撮り、メールアドレスやSNSの連絡先を交換し、忘れがたい大変楽しいひとときを過ごしました。

6. 参加者の対外発信

	
アメリカの料理についての発信 (Instagram) カケハシ・プロジェクトを通してアメリカの料理は、一言では説明できないことに気づきました。アメリカは、様々な人種の人々から成り立っている国なので、アメリカの人々は様々な食文化を受け入れ、認めてきました。	カケハシ・プロジェクトについての発信 (Instagram) 今日は、在アメリカ合衆国日本大使館を訪れました。私たちは、大使館や外交業務について学びました。午後は、アメリカン大学を訪問し、大学院生からたくさんの有益な情報を得ることができ、将来について考える良い機会となりました。ありがとうございました。今日は日本のひな祭りの日です。人々は女の子の健康や幸せを願いお祝いします。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

アクション・プラン (グループ1) 今回作成したプレゼンテーションの内容を基にカケハシの Instagram アカウントで米国人へ日本の魅力を発信する。	アクション・プラン (グループ2) ・アメリカには四季を感じさせる料理などがないと気づいたため、日本で四季を感じさせるものを日常で感じたり見つけたりしたら、Instagramで発信する。 ・折り紙を週2回のペースで新作を作り、その動画や写真をInstagramで発信する。 ・「にぽにか(外務省が発行する海外向けの写真広報誌)」を読み、リンクとその感想をInstagramで発信する。
アクション・プラン (グループ3) 立教カケハシのInstagramのアカウントを使用して、日本に興味を持っている人、訪れたいと思っている人を対象に実際にアメリカを訪問して感じた日本の魅力を1週間に2回Instagramに投稿する。	アクション・プラン (グループ4) 日本訪問に興味がある人を対象にカケハシのInstagramのアカウントを利用して日本を訪れた人に心地よく滞在してもらうため、日本を訪れる際に知っておきたいマナーを紹介する。立教大学のグローバルラウンジで開催されている昼食会で留学生に対して日本に来て驚いたこと等のインタビューをし、Instagramで発信する。5月末までに3回投稿する。